

1 単元 光じまん！スペシャル Lunch を紹介しよう！

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、「How many?」において、慣れ親しんだ語句や表現を用いて、欲しいお菓子の数を尋ねたり、答えたりする活動を経験している。そこでは、相手に分かりやすく伝えるためのジェスチャーや理解を示すリアクション等に注目しながら、よりよいコミュニケーションを考えてきた。このような子どもが、「スペシャルランチを紹介しよう！」においても、相手に分かりやすく、気持ちのよいやり取りに着目し、伝え方や聞き方を工夫しながら、自ら課題を発見し、よりよく解決・表現する方法を探究するだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材では、給食で人気のメニューの一つであるカレーを取り上げ、ALT に食べてもらいたいスペシャルランチを ALT や友達とやり取りしながら、相手意識や目的意識をもって取り組むことのできる教材である。栄養教諭と連携することで、給食採用も視野に入れて活動する。ここでは、地元の食材の言い方や欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しんだり、場面に応じた表現を相手とコミュニケーションを取ったりすることが大切である。そこで、どうすれば相手とよりよくコミュニケーションを取ることができるか探求する活動を設定する。子どもは、コミュニケーションの工夫であるジェスチャーやリアクション、聞き返しの仕方等を試しながら活動に取り組み、よりよいコミュニケーションについて考えを深めていくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元を通して、やり取りのデモンストレーションを共有する。そうすることで、会話の場面設定を捉え、課題として取り組むコミュニケーションの工夫を選び、自ら課題を解決しようとすることができるようにする。
- 単元の終わりには、店員役と客役の役割分担を明確にした上で、お店での買い物のやり取りを行う。そうすることで、食材を集めるという目的をもちながら言語活動を行い、それぞれの立場の視点からコミュニケーションの工夫について考えることができるようにする。

3 目標

- (1) 外国語と、それが由来する英語の違いに気付き、形、食材の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。 【知識及び技能】
- (2) ALT や友達に紹介するスペシャルランチを作るために、形、食材の言い方や欲しいものを伝え合う活動を通して、よりよいコミュニケーションを工夫しながら、尋ねたり答えたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 相手に伝わるように工夫しながら、形、食材の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりしようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

4 指導計画（総時数 7 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ①	○ スペシャルランチについて、ALT のモデルをもとに単元の学習活動を計画する。 ・単元の見通し ・目的・状況・場面 ・地域の食材を伝える面白さ ・必要な言語材料 ・コミュニケーションの工夫	○ ALT の住んでいた地域のランチメニューを紹介してもらい、モデルを示す。そうすることで、言い方の違いや食文化の違いに気付くと共に、食材などの語句や表現に慣れ親しむことができる。 ○ どのようにすれば、ALT が喜ぶスペシャルランチを作ることができるかを考えさせる。そうすることで、目的をもってコミュニケーションを取ることができる見通しをもつことができる。
二 ⑤ 本時 4 ／ 5	○ 食材の言い方や欲しいものを尋ねたり答えたりする言い方に慣れ親しむ。 ・コミュニケーションの課題 ・食材の言い方 ・欲しいものを尋ねたり答えたりする言い方 ● 食材を集める活動について、欲しい食材を尋ねたり答えたりする。 ・やり取りの仕方 ・コミュニケーションの工夫の仕方 ○ スペシャルランチを紹介する。 ・紹介の仕方 ・よりよい伝え方	○ コミュニケーションの工夫（ジェスチャー・リアクション・聞き返しや繰り返し）の中で自身の課題となるポイントを選択させる。そうすることで、会話で大切なポイントを意識しながら、課題解決に向かうことができるようにする。 ○ よりよいやり取りになるように、既習表現を確認したり、困った時はその内容をシェアリングで話し合ったりすることができるようにする。 ○ 振り返りの際、コミュニケーションの工夫をもとに振り返ることで、よりよいやり取りになるような改善点を見つけることができるようにする。
三 ①	○ スペシャルランチを考え、紹介したことについてまとめる。 ・成果と課題 ・課題の解決方法	○ スペシャルランチを紹介するまでのことを振り返らせ、よりよいコミュニケーションについて考えさせる。そうすることで学習した成果と課題や次に向けた展望をもたせるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手が欲しい食材を“What do you want?”の表現を使って尋ねたり、“I want～please.”の表現を使って答えたりすることに慣れ親しんでいる。	よりよいやり取りになるようにコミュニケーションの工夫（ジェスチャーや確認するための相手の発言の繰り返しや等）を取り入れ、伝え合うことができている。	スペシャルランチを紹介するために、ALT や友達とのやり取りに参加し、相手に伝えるために工夫を取り入れようとしている。

6 本時案 ー第二次・4時分ー

- (1) 主眼 欲しい食材を ALT や友達と尋ねたり、答えたりする活動を通して、相手とよりよいコミュニケーションを取ることができる。
- (2) 準備 ピクチャーカード ワークシート 振り返りシート タブレット
- (3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 学習の見通しを立てる ・目的、状況、場面の共有 ・コミュニケーションの工夫 ジェスチャー・リアクション・聞き返しや繰り返し等	ア 店員役になったら、地元の食材を買ってもらえるように工夫したいな イ お客さんは欲しい食材を伝えないといけないからジェスチャーや相手に伝わったかどうかの確認の繰り返しが大切だと思うよ	・買い物場面のやりとりであることを確認し、よりよいやりとりに向けてどのコミュニケーションの工夫を中心に取り組むかを選択させる。そうすることで自身の課題意識をもたせることができるようにする。	10
2 学習課題をもとに、やり取りの確認をする What do you want? I want~please. Thank you. You're welcome.	ア 聞こえなかったとき “One more time” と言いたいな イ スムーズに言えるように食材をポインティングしながら話すといいね	・食材を集めに行く前に必要な言語材料を確認できるようにする。そうすることで、見通しをもって学習課題に取り組むことができるようにする。	15
3 店員役と客役に分かれ、ALT のためにスペシャルカレーの食材を集める ・言いたい表現 ・コミュニケーションの工夫の共有 ・相手により分かりやすく伝えるための解決策	ア 私が言った数を友達がいもう一度繰り返して言っていたよ。食材や大きさの確認ができるから、まねしたよ イ お店にはない食材が欲しいと言われたけど、何と云えばエヴァン先生に聞きたいな	・困ったことや上手くいったことを確認し、コミュニケーションの工夫を共有したりすることで、次の活動につながるようにする。 ・相手に分かりやすく伝えるためにはどうしたらよいかを捉えさせる。	40
4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ ・成果と課題 ・解決の方法	ア 友達がポインティングしながら伝えてくれたから、分かりやすかったな。安心して買い物ができたよ イ 次は、エヴァン先生に、地元の食材のよさが伝わるようにしたいな	・本時のコミュニケーションの工夫を自己評価する。そうすることで、やり取りの中で改善したことや、コミュニケーションの工夫を活用したことを振り返ることができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

子どもが欲しい食材を友達や ALT や友達と尋ねたり、答えたりする活動を通して、よりよいコミュニケーションを取り、楽しさやよさを感じることができたか、授業中の発言や、振り返りシートの記述からみとる。

<メモ>